事例 61　住民主導型のコミュニティバス導入（醍醐コミュニティバス：京都市）

・　地下鉄開業に伴うバス路線の再編を契機に、地域住民（市民の会）、事業者と協力施設の協働によりコミュニティバスを導入し、現在も継続して運行を行っている。

■背景



・　醍醐地域では、地下鉄東西線の開業に伴い、市・民間バス路線が大幅に再編・減便されたため、地域内の公共交通ネットワークが脆弱化した。また、高台や坂の上に住宅が多く、高齢化も進展。

■対応

・　地域内をきめ細やかに回る路線が必要であるとの認識の下、2001 年 9 月に「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」を結成。
・　路線とダイヤは市民が、停留所は市民の会及び事業者が決定した。また、会社・病院・商業施設等はパートーナーズとして利用促進活動と資金提供を実施。
・　2004 年 2 月から 4 路線で運行開始。運行業務は民間バス事業者（ヤサカバス）に委託。運営開始時から団体名を「醍醐コミュニティバス市民の会」とした。

■結果

・　住民が中心となり、地域の公共交通を確保（全国初の「市民共同方式」）。
・　利用者は 2 年間で 50 万人を超え、2007 年 5 月には 100 万人を突破。
・　住民が主体的に動くことにより、バスを自らの問題として捉え自らの手で支えていくという意識を生み出すことができた。

■課題

・　地域住民ボランティアによる利用者の案内等、利用促進のための活動の継続。
・　日曜日の中高年（男性）の利用促進と 2008 年 3 月から運行開始した新路線の利用動向。

（醍醐コミュニティバス市民の会）